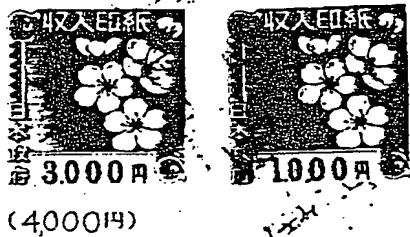


(7) Japanese Utility Model Application Laid-open No. 56-11136

If a twist or an eccentricity is caused between the drive shaft 6 and the nut 1 of the assembled apparatus according to the invention described above, an elastic deformation of the elastic members 2,2 provided between the nut 1 and the retainers 3, 3 absorbs the twist so as to establish a concentricity, or as to an eccentricity, a rotation of the drive shaft 6 facilitates a movement of the nut assembly 4 so as to establish a concentricity, because the nut assembly 4 is engaged with the engaging hole 5a with any frictional force applied by the elastic members 2, 2.





実用新案登録願

昭和54年7月6日

特許庁長官 川原能雄 殿

1. 考案の名称

自動車シート移動用送り装置のナット組立構造

2. 考案者

住所 神奈川県藤沢市亀井野3215

氏名 川原能雄 (外1名)

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 245

住所 神奈川県横浜市戸塚区東俣野町1760番地

名称 自動車電機工業株式会社

代表者 平野弘毅

電話 045(851)1231(代)

4. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通

(2) 図面 1通

(3) 請書副本 1通

54 093278

明細書

1. 考案の名称

自動車シート移動用送り装置 のナット組立体構造

2. 実用新案登録請求の範囲

駆動軸に設けたねじ部に係合するナットの軸方向端面に調芯用の弾性部材を介しリテーナを配設したナット組立体をナットハウジング内に配置させた自動車シート移動用送り装置において、前記リテーナの外周に設けた爪を弾性部材を介したナットに係合させてナット組立体を構成すると共に、
18字加入
33字削除
~~ナットハウジングに設けた嵌合孔に前記ナット組立体を嵌合させたことを特徴とする自動車シート移動用送り装置~~ のナット組立体構造

3. 考案の詳細な説明

本考案は自動車シート移動用送り装置の改良に関する。

従来の自動車シート移動用送り装置においては、ナット組立体はナットの軸方向両端面に弾性部材を介して配設したリテーナに孔を設けてねじ止めしていたため大型となると共に、組立にも手間を

要した。又大型のナット組立体をナットハウジングに設けた切欠きに配置していたためナットハウジングも大型となり、更に切欠きがあるために強度が弱くなるためナットハウジングの板厚を大にする必要があり、高価で重量も大となる欠点があった。

本考案はリテーナの外周に爪を設けて弾性部材を介したナットに係合させてナット組立体を構成させると共に、ナットハウジングに設けた嵌合孔に前記ナット組立体を嵌合させることにより、ナット組立体における止めねじを廃止し且つナットハウジングの強度を著しく増大させて前述した従来装置の欠点を解消した小型で軽量な自動車シート移動用送り装置を提供することを目的とする。

以下図に示す一実施例について本考案を説明する。第1図乃至第3図において、1はナットで、該ナット1の軸方向の両端面にボス部1a、1aを形成させ調芯用の弾性部材2、2の夫々を配置させる。3、3は前記弾性部材2、2の負荷の分布を一様にし破損を防止するためのリテーナであり、

前記リテー³、³の夫々の外周に爪^{3a}、^{3a}を設け弾性部材²、²を介したナット¹に係合させてナット組立体⁴を構成させる。5は嵌合孔^{5a}を有するナットハウジングである。尚前記嵌合孔^{5a}の軸方向の寸法はナット組立体⁴の軸方向寸法よりも若干小さく設定しておく。嵌合孔^{5a}にナット組立体⁴を嵌合する際はナット組立体⁴に介在させた弾性部材²、²の弾性変形により容易に行なえ、所定の位置で係止可能となる。尚ナットハウジング⁵に設けたねじ部^{5o}は図示しないシートの固定用レールに固定するためのものである。6は図示しない移動用レールに取付けられモータ等により回転される駆動軸で、ナット¹と係合するねじ部^{6a}を有する。

以上の構成による本考案装置の組込状態における駆動軸⁶とナット¹との間にねじれあるいは偏芯等が生じた場合においては、ナット¹とリテー³、³との間に介在させた弾性部材²、²の弾性変形によりねじれを吸収し調芯させると共に、偏芯に対しても弾性部材²、²により嵌合孔^{5a}

とナット組立体4とは適宜の摩擦力により嵌合しているので駆動軸6の回転により容易にナット組立体4が移動し駆動軸6との調芯が可能となる。

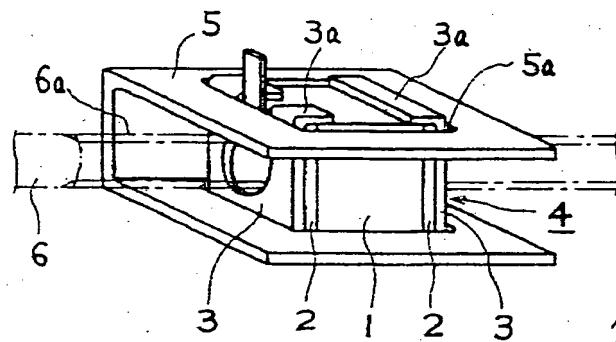
以上の如く本考案は、リテーナの外周に爪を設けて弾性部材を介したナットと係合させてナット組立体を構成させると共に、ナットハウジングに設けた嵌合孔に前記ナット組立体を嵌合させたので、駆動軸とナットの調芯が可能であり、又ナット組立体における止めねじを廃止し且つナットハウジングの強度を著るしく増大させたので小型軽量化が可能となると共に安価で組込性が向上する等の優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

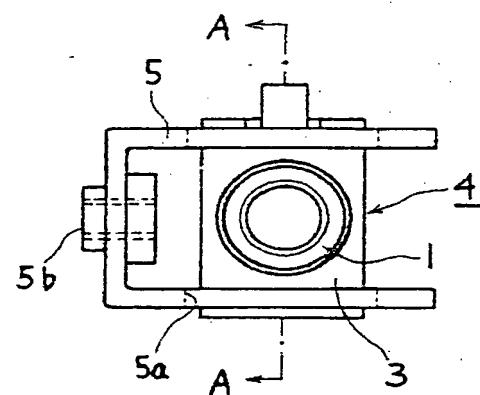
図は本考案の一実施例を示すもので、第1図は斜視図、第2図は正面図、第3図は第2図のA-A断面図である。

1 … ナット 2 … 弾性部材 3 … リテーナ
3a … 爪 4 … ナット組立体 5 … ナットハウジング
5a … 嵌合孔 6 … 駆動軸
6a … ねじ部

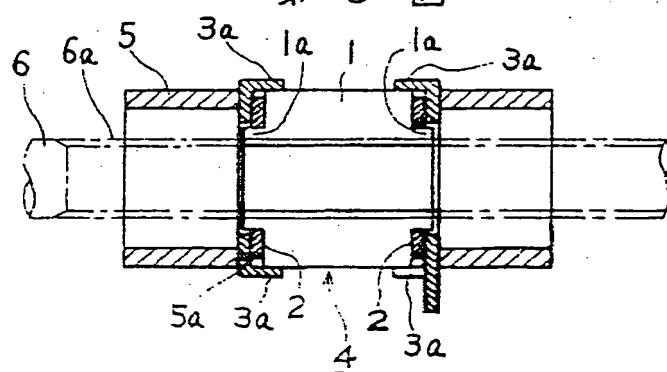
第1図



第2図



第3図



実用新案登録出願人

自動車電機工業株式会社

代表者 平野 弘毅

公開実用 昭和56— 11136

5. 前記以外の考案者

カワ サキ シ ナカヘラ ク シモヌマベ
住所 神奈川県川崎市中原区下沼部 1930

クニ ヨシ タミ オ
氏名 崑 吉 氏 生

11136

